

# HAKUOH JHS NEWS

白鷗大学足利中学校新聞 -vol.101-



発行所 / 白鷗大学足利中学校新聞委員会 足利市伊勢南町4-3 TEL.0284-42-1131



一致団結  
緑組組長 向田 悠

僕が緑組の組長として心がけたことは「緑組のみんなにプレッシャーを与えない」ということだ。組長として臨む体育祭、自分の組を優勝に導きたい気持ちはもちろんある。だが、それで緑組のみんなが伸び伸びと競技を楽しめなければ意味がない、と思ったからだ。僕の予

## 総合優勝！緑組

10月8日(日)、縦割りチーム対抗の体育祭が行われた。近年はコロナ禍によるクラス対抗であったが、4年ぶりに、学年に関係なく分かれた色別の4チームが優勝を目指して汗を流した。来年度運用の新校舎建設中のため、中学校の校庭ではなく、白鷗足利高校本校舎の校庭で実施された体育祭は、秋空そのもののさわやかな笑顔と歓声に包まれた。

### 体育祭スローガン

力を合わせて 共に前へ  
勇猛果敢に 突き進め!!



想以上に、練習の時から我が緑組は雰囲気がとてもよく、組長としてやる事がほとんどないほど、まとまってくれていた。体育祭の始まる時、僕は緑組のみんながリラックスできるような、声をかけた。

いよいよ最後のリレー競技。競技前には2位だった緑組だったが、リレーでは、走者と応援の声が一体となって、逆転で優勝！最後まであきらめない気持ちで優勝という結果を運んでくれたのだと思う。

最後に、共に緑組をまとめてくれた副組長、そして、一人ひとりが精一杯がんばった緑組のみんなへ。「ありがとう。中学校最後の体育祭は忘れられない思い出になりました。」



生徒がデザインした体育祭Tシャツ

私は、今回の体育祭の組長に立候補して、組長に選ばれ、その役割を果たすことがこんなに大変になるとは、思いませんでした。体育祭が始まるまでは、体育祭の間だけ白組のリーダーとして行動すればいいのかと安易に考えていました。しかし大勢の人をまとめるという行動がこれほど大変だとは思いませんでした。自分ではこれくらい出来るだろう、とか、これくらいは自分でやって当たり前、と思っていたり、組長が指示をすれば白組のみんながそのとおりに動くと思っていました。組長をやってみて初めて、そんなことはないと分かりました。

### 白組の組長として

白組組長 佐野 悠真

その中で、自分なりに苦労や工夫をして、白組のみんなが一つにまとまることを目の当たりにしたことで、とても感動する体育祭になりました。結果3位ではありましたが、白組の組長としてとても満足できた体育祭でした。



## 準優勝！青組



### 最高の仲間

青組組長 阿部 ほのか

今回の体育祭は、今までのクラス対抗ではなく縦割りの組対抗だった。1、2年生の時はクラス対抗で、仲間のことは全員知っていた。けれど今年には縦割りになり、あまり関わったことがない他学年の子たちもいて、「仲良くできるのか」がとても心配だった。だが、そんな心配なんてする必要はなかった。私は青組の組長をやらせてもらえることになった。少し不安はあったが、青組のみんなが協力して

### 宝物

紫組組長 井口 里桜

紫組には、どちらかというと消極的な生徒が多く、物事を進めるのにも時間がかかった。最初は下級生が自由に意見を言い合えず、他の組より盛り上がり足りなかった。そこで組長として、みんなに積極的に話しかけたり、話題を振ったり、明るく振る舞ったりと最善を尽くした。私以外にも副組長や3年生のおかげで、なんとか活気を取り戻すことができた。作戦を練り、限られた時間での練習を一生懸命頑張った。

そして体育祭当日。学年を超えた初めての仲間と共にスタートを切った。優勝を目指して一人ひとりが真剣に全力で競技に取り組み、応援し続けた。だが何度得点板を見ても

くれたおかげで、最高の組にすることができた。あまり話したことのない子とも話せて仲良くなったと思った。結果は優勝には届かず、準優勝で終わったが、組の全員が協力し合って準優勝までいけたので、悔しいというより楽しかったという言葉がふさわしく、思い出に残すことができた。青組の組長になれて最高だった。青組最高！



1位には辿り着けない。それでも諦めずに戦った。総合順位は4位。悔しい結果とはなったが、紫組の絆が深まり、楽しく終わることができた。中学校最後の体育祭は非常に有益な経験となった。みんなありがとう。そして気持ちには優勝おめでとう。



# 林間学校

志賀高原(7月30日〜8月1日)

## 心に残る大成功

3年 倉林 慧

普段は触れ合う機会の少ない自然を、肌で感じることができたウォークラリー。僕はもちろん、皆さんにとっても、楽しい思い出となったことでしょう。準備、運営、そして結果発表、すべての情景が燦然と輝いたまま、心に残っています。それ



## 憩いの場

3年 井口 里桜

とても楽しみにしていた昨年度の林間学校は、コロナウイルスの影響で中止に。退屈な夏休みを過ごしたことを良く覚えている。昨年度の方まで思いっきり楽しもうと決めた今年度の林間学校。私はキャンプファイヤー実行委員長になった。キ

キャンプファイヤーで何をするか決めていた時間はワクワクとドキドキで一杯だった。そして迎えた林間学校。みんなで創り上げたキャンプファイヤーはとても楽しく、一生の思い出となった。



## 準備は大変だったけれど

3年 堀越 雅人

3年生にとって最後の林間学校。僕は室内レクリエーション実行委員長となり、かなり気合を入れて臨みました。準備は

# 合唱祭

11月21日(火)

### 【曲名】

- 1年1組「愛にできることはまだあるかい」
- 1年2組「小さな恋のうた」
- 2年1組「チェリー」
- 2年2組「大切なもの」
- 3年1組「群青」
- 3年2組「星影のエール」

### 【生徒演奏】

- ピアノ独奏 伊澤 晶子「喜びの島」
- 吉田 浩太朗「戦場のメリークリスマス」
- リコーダー・ピアノ二重奏 姜 瑠璃・悦永 悠「ガブリエルのオーボエ」
- ピアノ弾き語り 木村 幸希「手紙〜拝啓十五の君へ〜」
- ギター弾き語り 横田 百花「3月9日」

### 【審査結果】

- 【最優秀賞】 3年1組 【優秀賞】 3年2組
- 【最優秀指揮者賞】 横田 百花 【最優秀伴奏者賞】 伊澤 晶子



# 体育DAY

7月5日(水)、白鷗足利高校体育館で体育デーが開催され、熱戦が繰り広げられた。結果は以下のとおり。

### 【卓球男子】

- 優勝 永倉 大成(3-1)
- 準優勝 黒田 健太(3-2)
- 第3位 渡邊 瑠亜(1-2)

### 【卓球女子】

- 優勝 久保田 莉乃(3-2)
- 準優勝 芳川 りお(3-2)
- 第3位 宮内 綾那(3-2)

### 【バドミントン男子】

- 優勝 悦永 遼・野村 優温ペア(1-2)
- 準優勝 岩上 慎大朗・亀山 有瑚ペア(3-1)
- 第3位 赤坂 知哉・倉林 慧ペア(3-2)

### 【バドミントン女子】

- 優勝 星野 明利・岡部 恭子ペア(2-1)
- 準優勝 井口 里桜・田中 美帆ペア(3-1)
- 第3位 松葉 瑞季・坂本 妃南乃ペア(3-2)

新人大会  
足利地区予選会  
サッカー大会



白鷗大学足利中学校・足利市立西中学校(合同チーム)

優勝!

## 白鷗大学足利中学校入学試験のご案内

第2回 入学試験	試験日	出願手続き期間 ※インターネット出願
	令和6年 1月27日(土)	令和6年 1月 8日(月・祝)~ 1月14日(日)

TEL.0284-42-1131 詳しくは 白鷗大学足利中学校 検索

## 税の作文 足利税務署長賞

### 「私の家族が救われたもの」

3年 坂野 未来

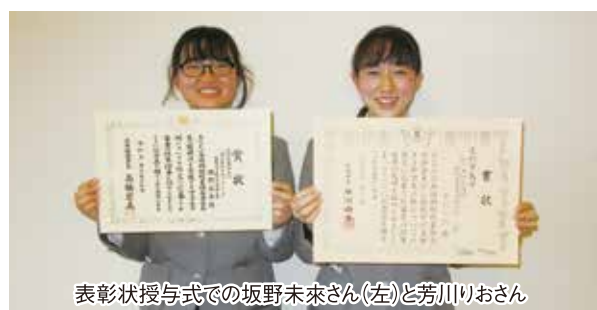
「税についての作文」では、本校から3名が表彰された。○足利税務署長賞 3年 坂野 未来さん ○足利市長賞 3年 芳川 りおさん ○足利納税貯蓄組合連合会長賞 3年 松葉 瑞季さん このうち、坂野未来さんと芳川りおさんが、11月17日(金)に「納税表彰式」で表彰状を授与された。足利税務署長賞を受賞した坂野未来さんの作文を掲載する。

を引いたのは社会保障費だ。集まった税金などを含む国の財源のうち、一番多く使われるこの費用は、医療、年金、福祉、介護、生活保護などのサービスに充てられている。なぜこの費用に目が留まったかという点、それは私の弟が大きく関係している。

予想以上に大変で、やるのがたくさんありました。しかし、委員のみんながスムーズに動いてくれて助けられました。か地方税なのか、どんな税の種類があり、どのように使われているのか。今まであまり興味を持ってることがなかったことに、恥ずかしさを感じた。そこで、国税庁のホームページに掲載されている、税の学習コーナーを調べてみた。要約すると、様々な種類の税金が集まり、私たちの生活に使われているとあった。改めて、莫大な予算や種類の多さに驚いた。なかでも、一際私の目



私の弟は生まれつき遺伝性溶血性貧血という病気を持って生まれた。この病気は、赤血球が壊れやすいため、貧血になりやすい。そのため、定期的に輸血を受ける必要がある。弟は、この病気の影響で、学校生活でも苦労していた。弟は、この病気の影響で、学校生活でも苦労していた。弟は、この病気の影響で、学校生活でも苦労していた。



表彰状授与式での坂野未来さん(左)と芳川りおさん

伝子疾患を持った障害児だった。心臓が悪く、生後二か月でカテーテル手術を受けた。母に聞いたところ、この手術の明細書には三百万円ほどの金額が記載されていたそうだった。手術代や治療費、P I C Uでの入院費。どうやってお金を支払おうかと、母は心配になった。費用が支払われ、弟は救われた。その後五回、弟は毎年のように手術を受け、六年の短い生涯を閉じた。生前、弟の喘息の薬や経腸栄養剤、車椅子の制作費用などは、医療給付制度や助成制度に助けられたそうだった。また、通園センターという医療型児童発達支援センターでは療育を受けることができた。弟はそのセンターで友達もでき、職員の方たちにもかわいがられ、充実した生活を送ることが

できた。両親も経済的に支えられ、納税の大切さ、支援への感謝の気持ちを保持しているという。私は当時幼くて何も知らなかったのだが、弟が税金に助けられていたことに驚き、感謝の気持ちでいっぱいになった。弟だけではなく、また中学生である私も、税金によって様々な面で助けられ、生活を送っている。今はまだ自分で払っている税金は消費税だけだが、大人になって働くようになれば、両親のように所得税や市県民税、車を持つようになれば自動車税を払うようになる。もう何年かすれば、今度は私が手を差し伸べる番になるのだ。国民の三大義務の一つである納税をしっかりと果たし、困っている子供や弟のような弱者が安心して暮らせるような社会にしたい。